ボランティアスピリットの継承のために

水難救済思想の普及活動レポート

（公社）日本水難救済会では、海事思想や水難救済会ボランティア思想を啓蒙することにより将来の後継者になってもらえるよう、青少年を対象に、海上保安官や消防署員、ライフセーバーの方々を講師に招いて全国各地で水難救済ボランティア教室を展開しています。

（公社）日本水難救済会による、稲城市立稲城第二小学校でのボランティア教室

若者の水難救済ボランティア教室

「若者の水難救済ボランティア教室」は、平成13年度から始まった事業で、小中学校や高校生等の若者に海の知識を深めてもらうとともに、海に親しむ機会を提供し、実地体験を通じて救命技術を習得してもらうことを目的としています。

教室では、海の安全意識の向上を図るとともに、水難救済ボランティア思想を啓蒙しています。

今年度も国土交通省、海上保安庁、消防庁から後援を受け、全国各地で開催しています。

■（公社）日本水難救済会

東京都稲城市の小学校で若者のボランティア教室を開催

平成26年9月5日午後、東京都稲城市立稲城第二小学校プールにて若者の水難救済ボランティア教室を開催した。

参加者は同校児童40名（5年生20名・6年生20名）と校長先生ほか担任の教職員5名。本会職員2名のほか講師に東京海上保安部から職員2名及び巡視艇まつなみ乗組員5名を招き、若者のボランティア教室の概要説明と講師紹介に引き続き、水難事故発生時の対応及び自己救命索の説明と準備運動、水慣れののちペットボトルを使用した背浮き体験、ボール及び救命胴衣等を使用した背浮き、ペットボトルを使用した救助方法の実演などを体験した。当日は、天候も良く、晴れで気温が30度であったことからプールの周囲に水を撒きながらの実施であったが、参加児童は元気いっぱいで、にぎやかなながらも、皆んなまじめに取組んでおり、また、児童の父兄5名がプールサイドから見学していた。

講師の指導により準備運動行う児童

救命胴衣着用での背浮き

ボール及び救命胴衣を使用した背浮き

■（公社）北海道海難防止・水難救済センター

着衣泳を初めて体験

平成26年9月3日、北海道勇払郡厚真町立厚真中央小学校プールで若者の水難救済ボランティア教室を開催した。

参加者は同校の児童46名（4年生20人、5年生26名）と教職員5名で、浜厚真救難所所員1名のほか講師として第一管区海上保安部及び苫小牧海上保安署の職員7名を招き行われ、はじめに第一管区海上保安本部の講師により水難の防止対策についての講義があり、その後、主に着衣泳の実技を行った。

本教室は、小学校の要請により、また、安全面から監視員数名配置して実施されたもので、参加した5年生は昨年も受講していたことから技術の向上が見られたが、4年生は着衣泳は今回が初めてとあって、真剣に取組んでいた。

着衣泳を体験する児童

救命胴衣着用の着衣泳を体験

■佐賀県水難救済会

自己救命策と命を守る着衣泳を習得

夏休み前の平成26年7月15日、有田町立有田中部小学校プールで同校の6年生児童91名 と教職員4名の参加による若者の水難救済ボランティア教室を開催した。

同教室には、唐津海上保安部の職員3名と一般社団法人日本水難学会の指導員4名を講師に招き行われたが、「ライフジャケットの着用」、「携帯電話 の携行」（防水パック使用）」及び「118番の有効活用」の3つを基本とする自己救命策の講議が行われたほか、ペットボトルにより命を守る着衣による背浮きを習得した。

ペットボトルを使用して着衣による背浮きの習得

着衣による背浮きの習得

■(NPO)長崎県水難救済会

◆西海市立平島小中学校

ライフジャケット着用の重要性を習得

平成26年7月15日、長崎県西彼杵半島の北部に位置し、小学校と中学校が併設された西海市立平島小中学校の生徒・児童や教職員、PTA併せて13名が参加して若者の水難救済ボランティア教室を開催した。

教室には、長崎県水難救済会4名と佐世保海上保安部の職員4名が講師となり、ライフジャケット着用の重要性や離岸流、海の危険生物など海の安全についての講義ののち、海で着衣泳の実技を行った。

前年度に引き続き参加していた児童・生徒は昨年よりも一歩踏み込んだ着衣泳を体験していた。

講師から離岸流について学ぶ生徒・児童

若者の水難救済ボランティア教室に参加した西海市立平島小中学校の生徒・児童と講師等

着衣による背浮きを学ぶ

着衣により海に飛び込み体験を行う中学生

◆長崎市立茂木小学校

「落水したらどうなるか」を全学年が身をもつて体験

平成26年7月16日、17日の2日間にわたり、全校生徒177名(3～6年生124名、1～2年生53名)を対象に若者の水難救済ボランティア教室を開催した。

教室には、教職員及び父兄も参加し、長崎県水難救済会4名と長崎海上保安部の職員2名が講師となり、落水した人を発見したときの対処法など海の安全についての講義ののち、プールで着衣泳の実技を行った。

衣服を着て水に入るのは初めてという児童たちが多く、落水したらどうなるかを身を持って体験していた。

ペットボトルを使用した浮身を指導する長崎県水難救済会職員

講義中の長崎県水難救済会職員と児童たち

着衣泳を習得する児童

■新潟県水難救済会

ペットボトルや救命胴衣を使用した浮力確保の教室を開催

◆新潟市立升形小学校

平成26年7月15日、全校児童97名を対象に教職員8名と父兄8名が参加し、若者の水難救済ボランティア教室を開催した。

教室は新潟県水難救済会のほか新潟海上保安部の職員3名の講師により1～2年生の低学年と3～6年生の高学年の児童を午前、午後2回に分け、また、安全のための監視員を配置して行われた。

着衣泳法、浮力練習、背浮き練習、ペットボトルを使用した浮力の確保の練習のほか救命胴衣着用による水泳体験、落水時の対応など展示訓練が行われたが、綿密な事前打ち合わせにより教師や父兄の協力もあり予定通りのプログラムを実施することができた。

児童に説明する講師

着衣での浮力練習

ペットボトルを使用した浮力確保の練習

落水時の対応の展示訓練

◆新潟市立西川中学校

平成26年7月22日、2年生の生徒110名を対象に教職員8名と父兄13名が参加し、若者の水難救済ボランティア教室を開催した。

教室は新潟県水難救済会職員等2名のほか新潟海上保安部の職員3名の講師により行われ、浮力実験、背浮き練習、ペットボトルを使用した浮力の確保の練習のほか救命胴衣着用による水泳体験、落水時の対応など展示訓練が行われたが、数名の父兄もプールに入り指導方法等を熱心に学んでいた。